

# びとう和広後援会ニュース

16号外 No. 2  
発行日：2016年8月6日  
発行責任：びとう和広後援会  
会長：浅居繁樹

## 4期目挑戦に向け、 新たな決意！



皆様の力強いご支援に心から感謝いたします。  
皆様から戴いたご意見・ご提案をもとに、  
「安心・元気なまち・三田」を創ります。  
しっかりとした審議ができる議会こそ「まちづくりの柱」  
と考え、「将来への責任」を果たすために、  
皆様のご支援に応えられるよう、力一杯頑張ります。

## 『びとう和広』後援会 会員拡大活動を展開中！！



三田地区  
メーテ-大会



労連の  
運動会

人口が急増した三田市は、今から急激な高齢化が進みます。  
今こそ、将来の少子高齢化に対応したまちづくりが必要です。  
安心して「**住み・働き・憩い・学び続けられる元気なまち・三田**」をめざして、  
市民が一体となって取り組む時だと考えます。

「びとう和広」は、皆様に市政に送っていただいてから12年間、「**皆様の声を市政に！**」をモットーに、できる限り皆様のお宅や職場にお伺いし、また、行事に出向いて、ご報告するとともに、ご意見・ご要望・ご提案を頂いてまいりました。現在も後援会会員の皆様のお宅を訪問し、また、皆様から新たにご紹介戴いたご家庭にもお伺いし、お話をさせて頂いています。これからも、対話が大切と考え、皆様から頂いた声をしっかりと市政に届けてまいります。



若者に  
市政報告会

「びとう和広」の**民間企業の視点**に立った政策と、**子を持つ親**として考える安心の三田の将来像に共感頂き、更なる後援会会員拡大に取り組んでいます。皆様のご支援をいただけるよう、精一杯頑張ります。皆様の親類・友人のご紹介を宜しくお願い致します。



【びとう和広 後援会 連絡先】  
＜連絡先＞ 〒669-1513 三田市三輪2丁目3番33号  
三菱電機労働組合三田支部気付  
Tel:079-563-1860 Fax:079-563-5093

＜自宅＞ 〒669-1537 三田市西山2丁目11番13号  
Tel.&Fax:079-562-8653  
＜電子メール＞ [bit@venus.dti.ne.jp](mailto:bit@venus.dti.ne.jp)  
＜ホームページ＞ <http://www.Bito-Kazuhiro.com>

# 安心・安全

## ○信頼される市民病院と地域医療の確立と充実

改善が進む市民病院も、医師・看護師の増員、病床数の増設、診療科拡大、救急体制強化など一層の充実を図ります。今年4月富士が丘にリハビリテーション病院が開設でき、市内や近隣市の病院・診療所と連携し、地域医療確立を推進します。

## ○高齢者・障がい者を地域で支える福祉の促進

認知症ケアの体制を整え、早期発見や家族と地域で支える仕組みで介護離職ゼロをめざします。弱者対策を地域単位に展開し、それを市が支える体制を強化します。



社内で介護研修会

## ○犯罪撲滅に向けた防犯体制の確立

見守り・巡回など一層の地域活動を推進するとともに、防犯カメラや防犯灯、公用車のドライブレコーダー搭載とネット展開などで犯罪抑止を進めます。

## ○グループ活動・生涯学習／スポーツの環境整備



中学の部活動種目が減少し、体育協会でクラブを設立

地域活動や文化・スポーツの活動を広く支える仕組みと体制を推進します。

# びとつ和広 4期目の 課題と政策

# 企画 ・財政

予算や決算審議では、私が訴えていた**事業別の目的と成果**で検証・審査されています。民間の感性・手法を活かして効率的で効果的な事業を推進します。

## ○市民の生活重視で行財政改革

市民の皆様にも共感頂きながら、更なる行財政改革を推進します。各事業を根本から見直し、各種団体のあり方を見直します。地域の予算と事業の計画構築を支援します。



議会と市民意見交換会 意見を整理し発表

## ○事業ごとに目的・コスト・効果と実績の見える化

事業の見える化に取り組んできました。事業仕分けができるほど各事業の目的の明確化、コストや効果の定量化による目標と実績の見える化を推進します。

## ○情報公開と市民参加の市政運営を推進

まちづくり基本条例に基づき、三田市政への市民参加・参画を進め、若者や様々な経験を持つ高齢者を活かした運営を図ります。



9月から三田地区の市民センターになる公民館

## ○公共施設マネジメントの推進

公共施設の運営状況・コスト・改修費を精査し、少子高齢化に合った運用を推進します。

# 子育て・教育

## ○放課後・休日の「子どもの居場所づくり」の推進

放課後児童クラブが6年生まで拡張出来ました。放課後・休日の居場所が必要です。地域活動としての「子どもの居場所づくり」を推進します。

## ○待機児童ゼロに向けた保育体制の拡充

認定こども園や認可保育所の拡充で、保育環境を整備出来つつあります。仕事と両立できる社会環境を推進します。



11月開設予定の三田駅北環境を推進します。認可保育所(定員60人)

## ○子育て世代が安心できる切れ目のない支援

結婚・妊娠・出産・育児・教育・就職と連携支援を進めます。保育体制や病児保育の強化などを進め、安心して働きながら子育てが出来る体制作りを進めます。

## ○豊かな自然を将来に引き継ぐ環境保全の推進

三田の豊かな自然を将来に継承するには、子どもの原体験が大切です。環境保全を推進し、自然の多い三田の魅力を教育の中に活かします。



希少種が生息する血池湿原(第二テクノパークの北)

希少種 サギソウ

# 経済 ・地域

## ○第二テクノパークを中心に雇用・流通強化

若者が三田に住み、三田で働くことで、三田が元気になると考え、**第二テクノパーク**(全97haの内、約60ha)への企業誘致を推進してきました。現在は、開発が完了しました。元気な三田の第一課題は雇用の充実です。雇用と流通網の整備を強化します。

## ○JR各駅周辺のさらなる活性化推進

三田駅南口Bブロックは来年春オープン予定です。引き続き、三田駅南口Cブロック・新三田駅や相野駅の周開発を積極的に進めます。三田駅前広場(デッキ上)や三田駅北口の賑わいと安全の開発も精一杯進めます。



キッピーモールの奥がBブロックです。左側がCブロックです。駅前の賑わいも大切です。

## ○担い手育成と三田ブランドの確立

単にシティセールスするだけでなく、市民全体で三田の再認識を行ない、担い手育成を支援し、継続可能な三田ブランドの確立を図ります。

## ○自治会・地域団体の連携で地域力向上を推進

自治会をはじめ、地域団体の皆様との連携により、地域でできる事業や管理業務を地域に委託し、地域課題を地域で解決・運営できる体質を推進します。目の行き届いた地域活動を推進します。